| 授業科目名：<br>人文地理学 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：渡部　斎<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 実務内容<br>（実務家教員の場合） | | | |
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校　地理歴史） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項<br>・人文地理学・自然地理学 | | |

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。

B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。

C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。

D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。

E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。

F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

・人文地理学を通して、複雑な人間生活空間を考察することができること。

・学修で習得した知識、概念、地理的技能を活用して諸地域の地域的特色を考察すること。

授業の概要

・人口、都市、地形図、集落、人間生活などを中心に、地域的特色や歴史的背景に留意して、人文地理学的な見方や考え方を学修する。

・地図を活用した学修（作業的、体験的学修活動）から、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

・スクーリングを活用して、我が国が抱える地理的な諸課題を探求し、事象を考察する。

・アクティブラーニングの手法を用いて、グループ学修等を実施する。

授業計画

第１回：人口地理学Ⅰ（分布と増減）

第２回：人口地理学Ⅱ（人口移動）

第３回：人口地理学Ⅲ（人口爆発のメカニズム）

第４回：人口地理学Ⅳ（小子高齢化時代）

第５回：都市地理学Ⅰ（都市の内部構造）

第６回：都市地理学Ⅱ（ＤＩＤとＣＢＤ）

第７回：都市地理学Ⅲ（都市圏）

第８回：都市地理学Ⅳ（都市の諸問題）

第９回：地形図から見る人間生活Ⅰ（地図読解）

第１０回：地形図から見る人間生活Ⅱ（地形と集落）

第１１回：地形図から見る人間生活Ⅲ（自然災害）

第１２回：テキストに関する質疑応答①、人文地理学とは、人文地理学の歩み（スクーリング）

第１３回：テキストに関する質疑応答②、人文地理学の事例としての人口地理学Ⅰ（スクーリング）

第１４回：テキストに関する質疑応答③、人文地理学の事例としての人口地理学Ⅱ（スクーリング）

第１５回：テキストに関する質疑応答④、都市・歴史地理学（スクーリング）

定期試験

＊スクーリングでは、第１２回～第１５回を実施する。

教科書

・稲垣　稜『現代社会の人文地理学』　古今書院　2014 年

参考文献

（１）地理統計集・資料集

（２）地理用語集・『高等地図帳』ニノ宮書店、帝国書院など（必携）

（３）武井正明他『新版　地理の完成』山川出版社　2015 年

（４）『高等学校学修指導要領解説』地理歴史編、『中学校学修指導要領解説』社会編

学生に対する評価

レポート評価（２５％）、スクーリング評価（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。